

2020年日本建築学会奨励賞 候補業績の応募・推薦

2020年日本建築学会奨励賞候補業績を下記の要領によって公募し、すぐれた業績を表彰いたします。

会員各位には、下記募集要領をご参照のうえ、期日までに、審査のために必要な資料および表彰に値する説明書を添付のうえ、ご応募またはご推薦方お願いいたします。

2019年8月
一般社団法人 日本建築学会

募集要領

新進の研究者による、近年中に発表された独創性・先駆性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績を表彰いたします。

1. 候補者資格

審査対象業績の業績発表の時点で本会正会員(個人)かつ満40歳未満の者。ただし、この制度によってすでに賞を受けたことのある者、また過去に学会賞(論文)を受賞した者を除く。

2. 業績

2016年1月より2018年12月の間に発表された、建築に関する優れた論文等(日本建築学会[各系]論文集、技術報告集、JAABE、JAR(原著論文)、本会以外の刊行するImpact Factor付きの英文学術誌に掲載されたもの1編)であって、応募者に帰属する業績。ただし、筆頭著者に限り、一人1編とする。

3. 審査の対象

- (1) 会員が応募したもの
- (2) 会員が推薦したもの
- (3) 支部が推薦したもの
- (4) 研究機関・団体、および職場が推薦したもの

4. 審査の資料

- (1) 候補応募申込書 1部(書式<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2019/1709b.doc>)
- (2) 候補論文 3部(コピーでもよい)
- (3) 業績説明書 1部
- (4) 審査の必要上さらに詳細な資料の提出を求めることがある。ただし、資料の作成費は本会には負担しない。

なお、他薦の場合は推薦理由書を添付のこと。

5. 業績説明書

業績説明書は、下記について1,500字以内(A4判1枚以内厳守)で候補者自身が説明したもの。

- (1) 当該研究分野や隣接分野の発展現況の概説
- (2) 候補論文の位置付け、成果の意義などについて、例えば、次の観点のうちのいくつかを選定して、当該分野に貢献したと主張できることの説明
 - a. 高い国際的水準の業績
 - b. 新しい領域・方法・概念の開拓
 - c. 豊かな独創性・先駆性・萌芽性・将来性
 - d. 卓越した緻密さ・丹念さ・努力
- (3) 連名の論文の場合は、応募者の果たした役割

6. 応募締切

2019年10月1日(火)17:00(必着)

7. 表彰

- (1) 論文の業績を対象とするが、賞を受ける者はその業績をあげた正会員(個人)とする。
- (2) 賞は「日本建築学会奨励賞」と称する。
- (3) 「日本建築学会奨励賞」の表彰は、賞状・賞牌および賞金を贈る。
- (4) 表彰は2020年度大会会場で行う。

8. 審査方法

- (1) 審査は日本建築学会奨励賞選考委員会が行う。
- (2) 日本建築学会奨励賞選考委員会において厳正な選考を行い、これに基づいて授賞論文を決定する。その際、分野を横断した論文、新しい領域、境界領域の論文についても十分に配慮する。

9. 審査資料の取扱い

- (1) 審査資料は、日本建築学会奨励賞

選考委員会宛に送付または持参する。

- (2) 審査のため提出した資料は返却しない。

2020年日本建築学会奨励賞選考委員会

委員長	清家 剛(東京大学教授)
幹事	加藤 耕一(東京大学教授) 兼松 学(東京理科大学教授)
委員	秋田 典子(千葉大学准教授) 浅野純一郎(豊橋技術科学大学教授) 岡崎太一郎(北海道大学教授) 小椋 大輔(京都大学教授) 喜々津仁密(国土技術政策総合研究所室長) 楠原 文雄(名古屋工業大学准教授) 栗原 伸治(日本大学教授) 斎尾 直子(東京工業大学准教授) 坂本 淳二(摂南大学教授) 佐藤 智美(清水建設技術研究所リサーチフェロー) 志手 一哉(芝浦工業大学教授) 辻村 壮平(茨城大学准教授) 西澤 泰彦(名古屋大学教授) 長谷川麻子(熊本大学准教授) 原 直也(関西大学教授) 福田 知弘(大阪大学准教授) 松島 信一(京都大学教授) 松田 和浩(名城大学准教授) 葉袋奈美子(日本女子大学教授) 森山 修治(日本大学教授) 湯浅 昇(日本大学教授)